

資料 4-1

平成 17 年第 1 回 E x T E N D 2005 基盤的研究企画評価
検討会 議事要旨

I 日時：平成 17 年 7 月 28 日（木） 10:30～12:37

II 場所：霞山会館 松・竹の間

III 出席委員：佐藤洋（座長）、小山次朗、遠山千春、鳥居圭市、永沼章、萩野哲、益永茂樹、渡邊知保
オブザーバー（代表研究者）：勝義直、松田勝（長濱嘉孝の代理）、長江真樹、中井誠、戸笈修（柏木昭彦の代理）、渡邊肇、鈴木勝士、青山博昭（敬称略）
事務局：上家環境安全課長他

IV 議題：

1. 平成 17 年度 ExTEND2005 基盤的研究課題について
2. その他

V 議事要旨

(1) ExTEND2005 における基盤的研究の基本的方向性について事務局から説明の後、検討が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・疫学研究班の位置づけはどうか。→疫学研究手法研究班（班長：京都大学佐藤俊哉先生）を基盤的研究事業内で立ち上げ、基盤的研究企画評価検討会で審議いただくという位置づけ。
- ・今年度についてはすでに課題が設定されているが、今後研究課題に変更はあるのか。→ ExTEND2005 における基盤的研究という事業は 5 年程度の年限で継続していく。課題については、その研究内容の企画・推移・評価に応じて、変更・不可・中断はありうる。
- ・来年度以降の研究については研究課題の設定の段階から議論していきたい。
- ・各課題の評価にあたっては、研究計画のタイムスパンを考慮する必要がある。

(2) 平成 17 年度研究課題として、「課題 1. エストロジェンによるメダカ精巣卵の誘起機構解析」「課題 2. メダカの生殖内分泌系に及ぼす化学物質の内分泌かく乱作用の作用メカニズムに関する研究」「課題 3. イトヨによる化学物質の内分泌かく乱作用の評価手法の研究」「課題 4. メダカアンドロジェン受容体結合性試験の確立」「課題 5. 両生類における変態のメカニズムに関する研究」「課題 6. ミジンコにおける内分泌かく乱作用発現のメカニズムに関する研究」「課題 7. 哺乳類試験において観察される変化についての研究」が提案され、この内容について各研究代表者が発表を行い、審議が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・環境省の研究として実施する理由が明確でないものもある。
- ・より詳細な研究計画書を研究者より提出していただき、書面で意見を返すということとしたい。

以上